

## シンポジウム報告

## 第52回ヨーロッパ畜産学会に参加して

山田 豊

農業技術研究機構 北海道農業研究センター 畜産草地部

第52回ヨーロッパ畜産学会が2001年8月26日から29日まで、ハンガリー共和国ブダペスト市で開かれ、参加する機会が得られたので、その概要を紹介したい。

この学会は、毎年開催され、ヨーロッパ各国で持ち回りで開かれている。参加者はヨーロッパを中心にしてはいるけれども、全世界から集まってきており、今回の参加者は約1,200人であった。部門は、大きく8つに分かれている。育種・栄養・飼養管理および衛生・生理・牛生産・羊および山羊生産・豚生産・馬生産である。実際には、これらの部門の重複する部分でジョイントセッションが開かれる。さらに一つの部門でそれぞれ特別のトピックについての特別講演が行われる。いずれの部門も6つの分科会に分かれている。各部門におけるテーマおよび演題数は以下の通りである。

## 育種部門 (169 演題)

第1分科会：遺伝子解析および評価における進歩

口頭発表 11, ポスター発表 31

第2分科会：家畜衛生の遺伝子解析とその生産形質との関連

口頭発表 9, ポスター発表 9

第3分科会：機能性ゲノム：遺伝と生理の結合 (生理部門第3分科会と共同)

口答発表 7, ポスター発表 10

第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論

口頭発表 8, ポスター発表 26

第5分科会：フリーコミュニケーション

口頭発表 12, ポスター発表 15

第6分科会：牛育種のグローバル化および地域遺伝資源の利用 (牛生産部門第6分科会と共同)

口頭発表 13, ポスター発表 18

## 栄養部門 (89 演題)

第1分科会：乾乳牛の栄養：その後の生産性および繁殖性への影響

口頭発表 4, ポスター発表 2

第2分科会：代謝負荷と繁殖——牛を中心として (後出)

演題は生理部門第2分科会と同じ

第3分科会：特別テーマII：肉および乳の安全性 (後出)

演題は飼養管理部門第3分科会と同じ

第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論

口頭発表 8, ポスター発表 54

第5分科会：環境へのミネラル蓄積減少における栄養の役割

口頭発表 8, ポスター発表 2

第6分科会：家畜栄養におけるサイレージの貯蔵と役割

口頭発表 11, ポスター発表無し

## 飼養管理および衛生部門 (114 演題)

第1分科会：飼養システムへの家畜の適応の生理 (生理部門第1分科会と共同)

口頭発表 7, ポスター発表 11

第2分科会：特別テーマIII：食物連鎖における遺伝的に修正された微生物

口頭発表 9, ポスター発表無し

第3分科会：特別テーマII：肉および乳の安全性 (栄養部門第3分科会, 牛生産部門第3分科会および豚生産第3分科会と共同)

口頭発表 10, ポスター発表 31

第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論

口頭発表 7, ポスター発表 16

第5分科会：疾病伝播：国際的貿易のための危険度評価およびその結果 (OIE-国際獣疫事務局とのジョイントセッション)

口頭発表 9, ポスター発表 5

第6分科会：疾病および低生産性の経済学

口頭発表 7, ポスター発表 2

## 生理部門 (60 演題)

第1分科会：飼養システムへの家畜の適応の生理 (前出)

演題は飼養管理および衛生部門第1分科会と同じ

第2分科会：代謝負荷と繁殖——牛を中心として (栄養部門第2分科会および牛生産部門第2分科会と共同)

- 口頭発表 6, ポスター発表 11
- 第3分科会：機能性ゲノム：遺伝と生理の結合（前出）  
演題は育種部門第3分科会と同じ
- 第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論  
口頭発表 4, ポスター発表 17
- 第5分科会：出生前後の死亡  
口頭発表 6, ポスター発表 無し
- 第6分科会：豚における繁殖工学（豚生産部門第6分科会と共同）  
口頭発表 5, ポスター発表 11
- 牛生産部門（65 演題）
- 第1分科会：特別テーマⅠ：畜産物およびその生産方法についての消費者の理解（羊および山羊生産部門第1分科会，豚生産部門第1部門，馬生産部門第1分科会と共同）  
口頭発表 10, ポスター発表 3
- 第2分科会：代謝負荷と繁殖——牛を中心として（前出）  
演題は生理部門第2分科会と同じ
- 第3分科会：特別テーマⅡ：肉および乳の安全性（前出）  
演題は飼養管理部門第3分科会と同じ
- 第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論  
口頭発表 8, ポスター発表 29
- 第5分科会：中央ヨーロッパおよび東ヨーロッパの畜産システムの再構築における持続的進歩  
口頭発表 7, ポスター発表 8
- 第6分科会：牛育種のグローバル化および地域遺伝資源の利用（前出）  
演題は育種部門第6分科会と同じ
- 羊および山羊生産部門（63 演題）
- 第1分科会：特別テーマⅠ：畜産物およびその生産方法についての消費者の理解（前出）  
演題は牛生産部門第1分科会と同じ
- 第2分科会：変化しつつある世界における反芻動物の展望  
口頭発表 8, ポスター発表無し
- 第3分科会：特別テーマⅡ：肉および乳の安全性（前出）  
演題は飼養管理および衛生部門第3分科会と同じ
- 第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論  
口頭発表 7, ポスター発表 26
- 第5分科会：成績記録と選抜目標の将来への必要性

- の評価
- 口頭発表 11, ポスター発表 無し
- 第6分科会：乳房炎の予防および制御  
口頭発表 11, ポスター発表 無し
- 豚生産部門（77 演題）
- 第1分科会：特別テーマⅠ：畜産物およびその生産方法についての消費者の理解（前出）  
演題は牛生産部門第1分科会と同じ
- 第2分科会：遺伝・栄養・給餌によって影響される豚屠体の脂肪の少ない成長および転換率  
口頭発表 10, ポスター発表 8
- 第3分科会：特別テーマⅡ：肉および乳の安全性（前出）  
演題は飼養管理および衛生部門第3分科会と同じ
- 第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論  
口頭発表 11, ポスター発表 32
- 第5分科会：繁殖豚の後代検定における新たな発展  
口頭発表 9, ポスター発表 7
- 第6分科会：豚における繁殖工学（前出）  
演題は生理部門第3分科会と同じ
- 馬生産部門（68 演題）
- 第1分科会：特別テーマⅠ：畜産物およびその生産方法についての消費者の理解（前出）  
演題は牛生産部門第1分科会と同じ
- 第2分科会：馬の選択的利用と生産  
口頭発表 10, ポスター発表 無し
- 第3分科会：ハンガリーにおける馬生産  
口頭発表 9, ポスター発表 無し
- 第4分科会：フリーコミュニケーションおよび部門運営討論  
口頭発表 9, ポスター発表 20
- 第5分科会：国際種馬：馬の検定および評価のヨーロッパにおけるシステム  
口頭発表 5, ポスター発表 6
- 第6分科会：リピッザン馬  
口頭発表 9, ポスター発表 無し

以上 705 演題が発表された。一部訳語が適当でないと思われるものがあるかとも思うが、それぞれの内容は理解していただけたと思う。なお、演題を申し込んでも、旅費などの関係で出席できず、キャンセルになった発表も結構あるが、詳しい数についてはわからない。

日本からの参加者は、家畜改良センターのアタギさん、畜産草地研究所の古川さん、キリンビール(株)のイシダさん、北海道農業研究センターの富樫さんおよび筆者の5名であった。このうち、発表したのは富樫さ

んと筆者の 2 名であった。富樫さんは「遺伝子型と環境との相互作用を考えた種雄牛モデル」という題で、育種部門第 6 分科会でポスター発表し、筆者は、「放牧肉牛における血中ミネラルの改善」という題で、生理部門第 4 分科会でポスター発表した。さらに筆者は、ポスター発表以外に 8 月 28 日午前に行われた生理部門の運営討論に参加した。ここでは、自分の発表した演題について簡単に紹介した後、論議を行った。さらに、主な演題について議論を行った。私のテーマについては、持続可能な畜産に関して有意義であるということであった。また、28 日午後からは、私の友人であるフランス人の Dr. le Dividich が座長を務めた生理部門第 4 分科会の「出生前後の死亡」に参加した。そのほか、いくつかの分科会に参加したが、スペースの関係で、内容については省略したい。いずれにしても演題数が多く、会場も多くに分かれていて、興味のある分科会すべてを聞くことは難しかった。

学会の会場となったのは、ブダペスト市の中心よりやや南に下がったところにある「BUTE 情報技術センター」であった。ちょうどドナウ川の右岸に近いところに建てられていた。広大な敷地の中に建てられた近代的な大きな建物であった。何となく、大学の中の一部の建物のようにあったが、良くわからない。学会の発表はすべてここで行われた。それ以外の行事として、8 月 26 日の夕方ウェルカムパーティーがここで行われた。8 月 27 日夕方には、ブダペスト市から北東にバスで 1 時間ほど行ったところにあるグドウルという街にある大学で「オープニングセレモニー」が行われ、その後すぐ近くの王妃の宮殿だったお城で「Get Together パーティ」が行われた。つづく 28 日夜に

は、ブダペスト市内のホテル「インターコンチネンタル」で、さよならパーティーが開催された。いずれのパーティーでもたくさんのごちそうが並べられ、遅くまで楽しい時を過ごすことができた。

ブダペスト市は、人口約 200 万人ということで、札幌と同じ様な大きさの街であった。自由経済に移行して、いま再建途中という感じであちこちで工事が行われていた。物価も安く、物も豊富にあるけれども一般の人はお金が無く買えないという感じであった。一方、共産主義時代の名残か、公共交通機関は非常に便利で、夜遅くまであり、私も毎日ホテルから「トラム」といわれる電車で学会会場まで往復した。また、治安も思ったよりも良さそうで、人情も厚いような印象を受けた。

最後に温泉の話。私も知らなかったのだが、温泉があちこちにあり、私の泊まったホテルにも温泉があり、宿泊客は無料ではいることができた。基本的には日本の温泉と同じであった。正式には、ふんどし（といっても前掛けみたいな物）をつけて入ることになっているのだが、地元の人には素っ裸では入っていたので、私もそれに見習った。ただ、朝は 6 時から開いているのだが、夜は 6 時には閉まってしまい、寝る前に入れなかったことが残念であった。また、温泉では、ホモの人が多いようで、やけに近くに寄ってきては、いろいろと親切にしてくれることがあり注意を要する感じであった。

以上とりとめのない内容になってしまったが、最後に有意義な学会に参加の機会を与えて下さった関係の皆様へ感謝したい。

